

JOB DESCRIPTION 設備設計エンジニア-神奈川

| ポジション概要 | |
|-----------|---|
| 所属部署名 | 製造技術本部 ①機械技術部（組立設備） ②金型技術部 |
| 最初の勤務地 | 神奈川県大和市 大和技術センター（本社） ※基本的には本社配属となります。その後、適性に応じて世界各国の拠点で働く可能性もあります。 |
| チーム体制 | 機械設計 40 名程度（ハード・ソフト含む）、金型設計 30 名程度（成形金型、プレス金型を含む） |
| 勤務体系 | コアなしフレックス勤務 |
| 仕事の内容 | <p>コネクターを作るためには、構成部材を作り出すための部材用設備とそれらを組み立てるための組立設備が必要です。まず部材を作るためには、金属部品を製造するプレス金型、プラスチック部品を製造する樹脂成形金型、金属にめっきを施すめっきラインが必要です。そこから生み出された、めっきされた金属部材とプラスチック部材を組み立てるのが最終工程の組立設備です。これら主要設備を製品設計部門など関連する部門の各 Engineer と、顧客要求仕様を満足しつつ如何にしたら molex にとっても優位性のある製品形状になるかを Discussion しながら、3 次元 CAD を使用し各設備設計を行っていきます。弊社の特徴として、研究開発部門が 1 カ所に集約された一貫した製品～設備開発を行う事で、各 Engineer は製造工程全体に携わる事が出来ます。試作段階から早期に、製品及び設備の改良・改善が適切に行われ、最終的に各設備を量産工場ですムーズに立ち上げ、製品量産に移行させることまでが設備設計 Engineer の主業務です。また、設備開発部門や工場などの要請を受け、画像やロボットを使った自動化設備の開発を行うのがロボットグループになります。海外拠点との関わりも多く、相互で製造技術の共有が行われ、グローバルな最新技術に触れる事で貢献、成長できる機会もあります。</p> <p>【1 年目の仕事】</p> <p>OJT と座学による研修を受け、各製造設備設計に必要な基礎知識と製品知識を学びます。外資企業でありながら、日本が基幹事業部として大きな権限を与えられています。英語を使う機会も多く、入社後からでも学んでいく意欲のある方にはピッタリな環境です。また、フレックス勤務、在宅勤務など自由度の高い勤務形態で社員が働きやすい環境が整っています。</p> |
| 求める経験・スキル | 理系を専攻の方 |
| 言語スキル | <p><必須> 日本語：上級 英語：初級～中級</p> <p>海外拠点との製造技術についての問い合わせや回答、新技術シェアなど e-mail でのやり取りや、PowerPoint による技術的資料の作製/受領後の部内展開などで使用する為、読み書きが必須です。技術的単語は配属後に OJT などで覚えて頂く事になります。翻訳ソフトを使いながらでも可能です。</p> |

部門/チームについて

製造技術本部は、コネクター製品の一貫した開発体制を行う為の主要な製造設備開発に関わる役割を担い、日本・韓国合わせて総勢約 300 名（日本 100 名）で組織され、その内、大和の機械設計エンジニア、金型設計エンジニアは約 70 名在席しています。設備設計部門が関わる部門としては、主に、製品設計部門、品質保証部門、製品量産工場があります。コネクター製品開発において、それぞれの関連部門と密接に関わります。さらに同じ製造技術本部内の機械技術部、生産技術部、金型技術部は、その開発初期段階から各担当設計者が、お互いの視点・知識・経験により意見・提案しながら、“製品品質” 及び “設備品質” の向上・造り込みを目的に、切磋琢磨しています。

欲しいタレント像について

- 自発的に行動が出来る人（積極性・探求心・協調性のある人材）
- 技術的好奇心旺盛で、上昇志向が高く、粘り強さ、結果に拘る人、夢中になれる人
- 周囲をリスペクトできる人（正直さ、敬意、思いやりを持って全ての人と接する、多様性を活かす）
- 向上心、探求心、学ぶ力、興味、好奇心が高い人（常に次の価値創造に向けて意欲的に取り組める人）
- 失敗経験から学ぶ人、謙虚な人（なぜそうなった？その時自分は？結果どうなった？）
- モノづくりに興味がある人

※ファイル添付



求める人物像.docx

キャリアパスについて

5年後：配属された各工程の設備設計 Engineer として製品設計レビューに参画し、製品実現の為にそれぞれの製造工程視点で自らの言葉により Discussion が行える。その担当となった新製品の製造設備設計者として、リーダーの助言を受けながらも、設計～製造～評価～量産まで一貫して責任もち完了させる事が出来る。

10年後：各工程の設備設計 Key エンジニアとして、後輩 Engineer の技術的・文化的教育を行い、製品設計レビューでは他製造工程設計を横断した DFM（Design For Manufacturing）Discussion により、品質とコストを盛り込んだ製品実現を行える。担当する設備開発では、それまでの経験と実績により確立された知識・技術と、新たに得た先行技術を融合し、市場に対して優位性の高い設備開発を実現する事が出来る。